

## 第3回白馬村観光振興のための財源確保検討委員会ワーキンググループ要旨

## (1) 新たな観光財源の運用イメージについて

○実行組織をどう作っていくかが大切だと思う。どこが実行していくかをしっかり決めなければいけないと思う。

## (2) その他

○観光税（集客税）については考えないのか。

- ・観光事業の切り分けが難しいため、シミュレーションする事が難しい。欧米では接客税と集客税の2本立てでやっているため、観光地経営の在り方の議論としてはあり得る。（事務局）

○海外のお客様が増え、滞在日数も増える中で宿泊施設以外の事業所の質を高めることが必要になってくる。そういった意味では観光事業者（宿泊施設以外）から徴収することも必要になってくると思う。

○宿泊者から徴収した税金は、お客様に還元することが原則であり、接客に使うことが望ましい。言い換えると、納税者はマーケティングに使うことに対して理解が得られにくいいため、そのお金については、事業者から分担金として徴収する方法が望ましい。

○宿泊事業者以外の事業税（負担金）などは時期尚早かと思う。

○事業者負担（村民負担）を求めることはなく、お客様から負担頂くという考えで行きたい。

○宿泊税を取るとなった場合、食事の金額は課税対象となるのか。

- ・宿泊税は宿泊行為に対して課税するものなので、食事代金を差し引いた額に対して課税する方法をほとんどの自治体で行っている。あくまでも申告納税である。（事務局）

○スキー場の入込みでは昨年度ハクババレーでは155万人のうち、日帰り客は27%というデータがあるが、そのお客様からは何も負担しないことになるがよいか。

○ここ近年の雪不足は深刻で、降雪機への投資なら公平でいいのではないか。

○ビジネスをするためにはプロモーションも必要で、宿泊税をプロモーションに使う事も大切だと思う。

○納税者には、納めていただく税金が何に使われるかを明示し、気持ちよく払っていただく必要があると思う。

○宿泊税を徴収できなかった（断られた）場合の取扱いはどうなるのか。

○宿泊税という名前にとらわれず、白馬らしい税の名前を決めていくのも良いのではないか。

- ・名前に関してはダイレクトで分かり易い方が説明しやすく良いのではないか。

○運用のイメージが見えるようにしてほしい。10年後、20年後、100年後の絵が見えたら、もっと宿泊税の必要性を感じることができると思う。観光地経営計画は文書でしかないのでムービー等で可視化して、子ども達が将来白馬村に帰ってきたくなる気持ちや、村民がわくわくするようなイメージを伝えられるものが必要ではないか。

○ワーキンググループで一つの検討結果を出したい。

- ・新たな観光財源は必要で、その手法は村民負担だけではなく、お客様から徴収し、お客様に還元していく。その方法論として一番最適なのは「宿泊税」ではないか。徴収方法については定率制がよいのではないか。
- ・どのような組織がリーダーシップをとって、どのように徴収し、どのように使うかについては検討結果には至っていないが、事務局の案が現段階ではベストではないか。
- ・10年後、20年後、50年後に子供たちが帰ってきたり、ここで住みたいという質の高い魅力的な白馬村を作っていくために、検討委員会でも早期導入に向けた検討をお願いしたい。